

## 2018年度 大学自己点検・評価(商学部)自己点検・評価総括用シート 1

## ＜商学部の教育研究目標の進捗状況＞

教育研究目標(タイトル)		評価指標	評価尺度	進捗状況	
目標1	高度な能力を有するビジネスパーソンの養成	一般入試以外の入試を見直すとともに、ハンズオン科目に関するカリキュラムを改編する。	A: 見直し・改編が完了している。 B: 見直し・改編の作業が行われている。 C: 見直し・改編について議論がなされている。 D: 見直し・改編に着手していない。	2018年度目標値	C
				2018年度自己点検・評価後(2018年度帳票提出時点)	B
目標2	国際化時代・情報化時代におけるグローバル人材の育成	習熟度別クラス編成が進み、その効果を受けて、海外の高等教育機関での単位取得数が増える。	A: 行動計画①②どちらもA B: 行動計画①②どちらもB C: 2015年度に比べて変化がみられる。 D: 2015年度のクラス数・単位数から変化がない。	2018年度目標値	C
				2018年度自己点検・評価後(2018年度帳票提出時点)	B

<2016～2018年度の自己点検・評価の取組み総括>

**総括1 <3年間の取組みによって改善したこと、向上したこと>**

3年間の取組みによって、2つの目標のそれぞれについて、以下の進捗が見られた。

**【目標1】**

1. さまざまな地域から少しでも多くの優秀な生徒を獲得すべく、「推薦指定校の見直し基準」の見直しをおこなった(2018年度入試より適用)。
2. 外国人留学生入学試験の出願資格および試験科目の変更をおこなった(2019年度入試より適用)。

**【目標2】**

1. 学部で提供するプログラムにつき、一定程度の派遣数を達成した。また、派遣数は年々増加している。
2. 英語必修授業において3つのレベルのクラス編成を導入した(2016年度より)。

また、さらなる改善に向けて、以下の内容を継続して議論している。

**【継続】**

1. 2016年度に新設したハンズオン科目の単位認定科目「ビジネスプロジェクト」の開発。
2. ハンズオン科目を学部専門科目および演習科目と連動させるためのカリキュラム改編の議論。
3. 海外の高等教育機関と連携したプログラムの開発。

**評価専門委員・所見記入欄:**

■総括1について

- ・ よく検証されています。(A)
- ・ 引き続き PDCA サイクルを機能させることで、更なる伸展が期待できます。(B)
- ・ 目標に対して概ね良好と言える。なお、商学部では、カリキュラムの編成において重要な5本の柱(①ビジネスパーソンとしての一般教養の修得、②ビジネスパーソンとしてのミニマム・コンピテンスの修得、③ビジネスパーソンとしての高度な専門知識の修得(ビジネスの各分野におけるスペシャリストとして意思決定能力・分析能力等を養うため、経営、会計、マーケティング、ファイナンス、ビジネス情報、国際ビジネスの6コースを設置し、各分野別に高度な専門知識を体系的に提供)、④ビジネスパーソンとしてのコミュニケーション能力の修得、⑤ビジネスパーソンとしての外国語能力の修得(外国語をツールとしてビジネスを学習する機会を提供))が立てられており質的に高いが、目標の設定は2つのみであり、それらで十分であるかの検討が今後必要である。例えば、目標1では指標において、2つの指標が示されているが、目標2でも商学部的視点も加味した指標を加えるなどの対応も検討のひとつと考えられる。(D)
- ・ 「継続」に挙げられた課題について、今後改善に向けた計画が検討され、成果につなげられることを期待します。(E)
- ・ 各目標について取り組みが進められ、今後取り組む内容が整理されていることが伺えます。(F)
- ・ 英語に関して、レベル分けの取り組みの成果が今年度で3年分集められたので、それを全学に公表して、英語教育のパイオニアになっていただきたい。(G)
- ・ 各目標について、現状に対する評価、今後の課題が整理されていますので、引き続きさらなる改善に向けた取り組みが進められることを期待しています。(H)